平成 14 年度総合目録データベース実務研修（目録担当者コース第 2 回）

＜演習課題：担当者教育＞渡邉、西野、千葉、北山

平成 14.11.28 発表

担当者教育　－ デファクト・スタンダードを目指して －

１．問題意識

教育する立場に就いた時に、再認識した構造的問題

・職場内教育の時間的余裕
・経験蓄積の機会
・実務経験の機会

減少

・スキルを持つ職員が周囲にいない
・教育方法・レベルが所属機関でまちまち

→目録業務担当者のスキルが低下していくのではないか、との危機感

２．担当者教育の実態

教育が行き届かない現状

・継続的な学習ができない
・方法論が必要
・現場の人的状況

時間をかけずに学習効果をあげる必要

３．担当者教育の目的

・総合目録データベースの品質維持
・知識と技術の習得

４．現状の教育機会・教材 と 問題点

・目録システム講習会
・NII（目録担当者のページ等）
・目録規則
・各機関で作成されている業務マニュアル
・メーリングリスト
・先輩職員からの助言

５．何が必要なのか

・「習得すべき知識」の周知
・総合目録データベース品質維持に対する意識の温度差の解消
・標準的な業務マニュアルのモデル提示
・散逸した知識・経験の集約
・教育機会増加の工夫

６．学習モデルの提案

誰もが利用できる目録業務のための学習ツール

(1)　目録担当者の学習項目　＜資料１＞

(2)　学習支援ツール　＜資料２、資料３＞

７．何が実現できるのか

・知識・経験の散逸を補完

・必要な学習項目を現在進行的に更新

・総合目録データベース品質維持への全国的な参加意識（温度差の解消）

８．運用のための要件

従来型との差別化

「利用」だけでなく「参加」型ポータルサイト

誰もが追加・更新できるシステム

９．予測される課題

基本的に自習支援ツールであることの限界

・参加者の規模がカギ

特に、経験豊富なスタッフがどれだけ参加するか

・誰もが知っていることが必要

広報が重要

１０．学習方法の標準モデル

目録業務の円滑な運用

・各人の継続的な学習

・それを支援するための標準的な学習モデル

↓

担当者教育のデファクト・スタンダードに

――

（参考）デファクト・スタンダード　De Fact Standard

競争の結果、市場で認知された「事実上」の標準。パソコンＯＳの Windows やビデオのＶＨＳなど